



“心温まるひととき”を提供できる施設を目指して



新年あけましておめでとうございます。

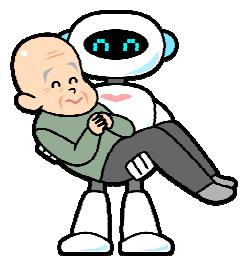
2025年にまつわる言葉、「2025年問題」と「2025年の崖」をご存じでしょうか。2025年には75歳以上の後期高齢者が大幅に増加し、医療や福祉に関する費用の増大、ビジネスケアラーや介護離職の増加による生産性低下、後継者不足による廃業など、社会に大きな影響が及ぼすことが予測され、「2025年問題」として危惧されています。一方、経済産業省は、日本企業がDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進できず、老朽化したシステムを使い続けた場合、国際競争力を失い、2025年以降に経済損失を招く可能性があるとし、これを「2025年の崖」として警鐘を鳴らしています。(ここでDXとは、ITやデジタル技術を活用して業務や生活を変革することを指します。例えば、Amazonはインターネットを活用して商品、音楽、ビデオなどを提供し、私たちの生活スタイルを大きく変革しました。)



これらの問題は介護現場において深刻な影響を及ぼすことが予想されます。介護DXの推進によりITツールやAI、介護ロボットなどが導入にされれば、業務が効率よく回るようになり、介護従事者の負担を軽減することができます。また、情報管理ツールによりご利用者様一人一人にとって最適なケアプランが構築され、多職種スタッフ間で共有されることで、より良いサービスの提供が可能となるでしょう。

現時点では、介護DXにはまだ多くの課題が残っています。まず導入コストが高い割には費用対効果が明確ではありません。また、DXに詳しい人材が不足しており、現場スタッフが使いこなし、管理できるようになるまで時間や労力を要します。

近い将来このような問題がすべて解決され、介護DXが推進された介護現場はどのような姿になるのでしょうか。技術の導入により業務の効率性や安全性は向上するでしょうが、同時に人間的な温かさやコミュニケーションの重要性を忘れてはなりません。介護DXが進む中で、技術と人間的なケアのバランスをどのように保つかが、重要な課題となります。AIやロボットが業務をサポートする一方で、介護従事者がご利用者様とのコミュニケーションや感情的なサポートを行うことが期待されます。介護は単なる身体的なケアだけでなく、心のケアも含まれます。ご利用者様との対話、優しい言葉掛け、手を添えるなどの身体的なサポートは、安心感や信頼感を生む重要な要素です。技術の導入が人間関係を希薄にするのではなく、むしろそれを深める手助けとなることが求められます。



先日、ご利用者様の機械浴に立ち会う機会がありました。「お湯加減はちょうどよいですか？しっかり温まりましたよね。気持ちがいいですか？髪を洗いますね。」介護従事者は、言葉掛けをしながらご利用者様の髪を丁寧に

洗い、ご利用者様はリラックスされ気持ちよさそうな表情を浮かべていらっしゃいました。最終的には、介護従事者の心がご利用者様に寄り添い、温かい関係を築くことが、介護サービスの質を高める鍵となるでしょう。



2025年も引き続き、“心温まるひととき”を提供できる施設を目指して尽力してまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

施設長：中島 典子



暖かな陽射しにも恵まれ、今年も恒例となっている「芋煮会」をおこないました。

今年の会場は駐車場と事務所前のスペースで野外・屋内の計二か所としました。

出勤時に少し雨がパラパラと降り、今年は野外での実施は大丈夫かな?と不安になりましたが、ご利用者の願いが強かったのか、はたまた実行担当者達の日頃の行いが良かったのか・・・雨もすぐに上がり、雲も晴れ、若干の肌寒さを感じたものの野外を会場にして芋煮を食べるのに丁度いい気候となりました。



芋煮担当の職員は早朝から寒さや眠気と戦いながら火起こし、具材の調理、味の調整など、開始の時間に間に合うよう額に汗をにじませながら必死の作業が続きます。その甲斐あって出来上がった芋煮はお世辞抜きに最高の出来上がりとなりました。その証拠に私自身、昼食時的一杯を合わせると計五杯も食べてしまいました。(健康診断も終わったり自分で良しとしています)

ご利用者はと言うと、皆さま「おいしい」「おかわり」「もっと食べたい」と口をそろえて言って頂き、フロアへ戻って頂くのに一苦労・・・と言う場面もあったような、なかったような。

当日に写真係だった私としては、ご利用者の自然な笑顔を撮ることが簡単に出来てよかったです。

来年も「芋煮会」をおこないますので、その際はご家族も参加して頂けると幸いです。

ケアポート・田谷の名物料理を皆さんも是非一度味わってみて下さい。



楽しいクリスマス会

今年も2階・3階合同で恒例のクリスマス会を行いました。施設長が開会の挨拶をして。クリスマツツリーの点灯式をしてから、楽しいクリスマス会の始まりです。

最初のプログラムはハンドベルの調べです。ご利用者が一所懸命「キラキラ星」を演奏する様子はとても感動的でした。次は職員たちの「ジングルベル」の演奏でしたが、最初は緊張して音が合わず、ご利用者のご声援で無事に演奏することができました。

次は職員とご利用者の寸劇集団が繰り広げる笑いあり涙な



しの爆笑ステージ。サンタクロースを捕まえた悪党サンタと正義の救世主マツケンと戦うシーンは多くの笑いを誘いました。マツケンと言えば、もちろんマツケンサンバも披露していただきました。会場のご利用者と一緒にマツケンサンバを踊り、冬と思えない程の熱気が会場をつつみました。



最後に悪党リーダ（看護課長）とマツケンはみんなと一緒に歌を歌い、クリスマス会を終えました。3時のおやつにケーキを食べながら、クリスマス会の「ハンドベル凄いね」、「マツケンサンバが楽しいね」、「劇が面白かったね」とご利用者が談笑されていました。

来年も楽しい企画をして、ご利用者と楽しく過ごしていきたいと思います。



2階介護：王 紫媚



今年も感染症等なく、2F3F合同のクリスマス会を行う事が出来ました。

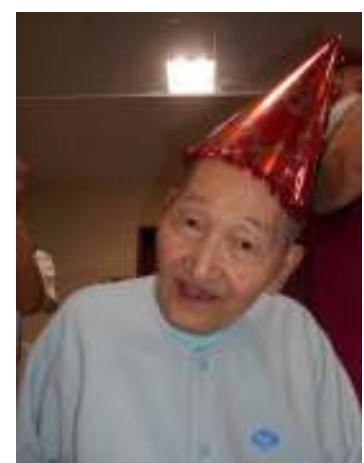
始めにハンドベルからスタートです。ご利用者、職員とも真剣な表情でベルを打ち鳴らす姿に感動しました。次の演目は寸劇です。ブラックサンタが現れみんなのプレゼントを盗み出そうとしますが、正義の味方マツケンが現れブラックサンタを討伐し、最後はマツケンサンバをみんなで歌って踊って締めました。私も森



野助平と言う役をいただき自己満足になっておりますが、大変盛り上がったと自負しております。また来年もマツケンさんの活躍を期待したいところですね。その後は歌を歌い閉会となりました。フロアに戻ってからはクリスマスケーキを食べました。普段あまり提供されない事もあり皆さん美味しいとペロッと召し上がってしました。

今現在この記事を書いている12月の後半はインフルエンザが全国的に猛威をふるっており、やはり施設で感染症が発生してしまうと大勢で集まりこのようにみんなで集まりイベントを開催するというのが困難になってしまいます。今後も気を付けながら生活しクリスマス会だけではなく、今後も皆さんで集まり色々なイベントが行えることを切に願っています。

3階介護主任：森野 晋



新年明けましておめでとうございます。

さて毎年恒例のおせち自慢ですが、今年も彩り鮮やかで多種多様な食材を盛り付けた「おせち弁当」となりました。元日の朝早くから沢山の食材が並ぶ様は何度見ても圧巻で、まるで厨房内がおせちの重箱になったかのような状況です。その中で一つ一つを間違えないよう丁寧に盛り付けていく厨房スタッフの努力には本当に感謝しかありません。ちなみに私個人としてはこの厨房の慌ただしさとまったりと流れていくお正月特有の空気感の対比が実は好きだったりもします。そして出来上がったおせち弁当を喜んで召し上がってくださるご利用者の姿が何よりのお年玉だな、と感じています。引き続き美



味しいお食事を届けられるよう栄養科一同頑張っていきたいと思いますので、今年も一年間よろしくお願いいいたします。栄養科副主任：江崎 ふみ





クリスマス会

ケアポート・田谷のデイケアでは、今年もクリスマス会を開催いたしました。23日から25日の三日間、異なるプログラムを用意

してご利用者に楽しんでいただきました。

初日は知る人ぞ知る「クイズダービー」を模したゲームです。職員が回答者になり、ご利用者がその顔色を窺いながら本当の正解者を当てるというもの。



二日目は入所職員の玉置さん、栃木さんが応援に駆けつけてくれてギターの演奏会。素敵な音楽を披露して頂き、ご利用者も手拍子をしたり鈴を鳴らしながら

歌に耳を傾け、懐かしそうに口ずさんでいました。

最終日は「寿司案ルーレット」と題した、リアクションから大量のわさびを食べている人を当てるゲーム。職員は辛いのを必死に我慢したり、辛いフリを演技したりでご利用者を惑わせます。その後は定番の豪華?プレゼントが当たるbingoゲームで一喜一憂しながら盛り上がりいました。



ささやかなクリスマス会ではありましたが、ご利用者の暖かい笑顔を見ることが出来て、職員共々楽しい時間を過ごせたことを喜ばしく思いました。まだ鬼が笑うかもしれません、また来年のクリスマス会はより一層楽しい時間を演出したいなと感じました。

通所介護：永淵 健

様々な作品作り ～高みを目指して～

寒さも大変厳しくなってきております。皆様の心豊かな一年になることを心より願い、謹んで新年のお祝いを申し上げます。



デイケアの様子を紹介したいと思います。

全体作業として、新年の壁画作りをデイのご利用者と作成いたしました。年始の締め切りが迫っていることもあり、皆大慌てでかつワイワイしながら完成にこぎつけました。貼り絵や花の折り紙を使用し、大きな蛇の壁画になっています。施設受付前に飾ってありますので是非ご覧いただけたらと思います。

また、作業週間として継続的に習字・絵手紙・クラフト手芸を行っています。皆様、とても真剣に取り組まれており、どの作品もとても個性あふれる作品に仕上がっています。作品を見るといつもその出来栄え・素敵さに感心させられます。習字に関して、自分自身のその年を表す漢字を書いていただきました。みなさま一年をふりかえり、深く考えられ自分の漢字を見つけ出していました。一例ですが、このような漢字がありました。明・樂・喜・安・上・健等様々で、とても味わい深く書かれていました。

そしてレクリエーションについても触れたいと思います。レクリエーションは、脳トレ・運動レクを行っていますが、特に私の好きなレクの一つを紹介したいと思います。「私は誰でしょう?」というゲームです。紙に書かれたものに司会者がなりきり、ヒントを出してそれを元に、ご利用者・職員が司会者は誰になりきっているのかを当てるゲームなのですが、司会者以外答えを知らない上、なりきっているものが人間とは限らないため毎回とても盛り上がっています。どのご利用者もあれかな?これかな?と発言が大変多くみられます。また、明らかに正解にたどり着きそうもないときは司会者が答えにたどり着きそうな職員からより効果的なヒントを引き出していくます。答えが毎回違う、みんなで答えを探していく全員参加型の協力ゲームなのでとても面白く感じられます。



皆様にとってより良い一年になれるようサポートしていくことができればと思います。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

通所介護副主任：上野 亘